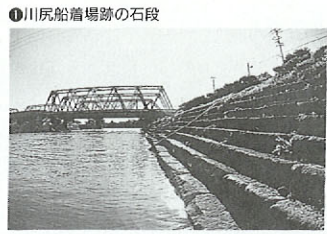


# 熊本六街道 薩摩街道



①川尻船着場跡の石段



②西安寺前の街道



③西安寺



④宇土の町中を通る街道



⑤大慈禅寺道標前の街道



⑥城光寺

薩摩藩参勤交代時の休憩所。写真の山門は薩摩藩が寄進したもの。



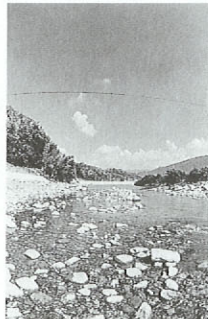
⑦大塚



⑧小川町御茶屋跡



⑨苧草の宿跡



⑩薩摩磯

川を飛び石で渡る、「かち渡り」であった。



⑪赤松第1号眼鏡橋



⑫塩屋眼鏡橋



⑬陣の坂から見た水俣の町



⑭陣の坂・公徳碑と鬼の歯がた岩



⑮重盤岩

## 御本陣（熊本市川尻町）

川尻——かつて、薩摩側から熊本城下に入る最後の宿泊地として、大名・諸侯の常宿「本陣」が置かれていた。新町から二里という距離が、城下町に近すぎず、参勤交代の大人数が宿泊するのに適していたのだという。現在の法性寺の南側あたりがその跡である。

また、川尻は「肥後藩の台所」でもあった。本陣の近くにある船着場に、領内からの年貢米の大部分が水揚げされ、米蔵が並び、水運の拠点として多くの川船が往来した。水揚げされた物資は、ここからさらに陸路（薩摩街道）を使って熊本城下へと運ばれた。この町は街道の宿場町であると同時に、陸路と水路の中継拠点でもあり、その二つの地域的特色が重なりあって、肥後藩の中でも五本の指に入るほど栄えたのである。

船着場跡の長さ百五十メートル、十三段の石段が、水運隆盛の名残りを留め、表通りに建ち並ぶ商店が、宿場町として賑わった当時の面影を今に伝えている。

## 二筋の街道（八代市）

八代は、薩摩に対する警備の意味から八代城が残され、その周辺は熊本城下に次ぐ肥後藩第二の城下町として栄えた。昔、城下町防備の第一線は入口に集まっていた寺だったという。八代もその例に洩れず、入口付近には寺が多い。その中の一つ、とんち話で有名な彦一塚がある光徳寺は、西南戦争の時、一時官軍の本営がおかれた寺でもある。

その八代には現在、二筋の街道が伝えられている。一つは城下町の中（現代の本町周辺）を通る街道もう一つは八代の入口辺りから左に折れ、萩原の渡りして球磨川を渡る街道である。旅をする人々は、近道や早く通れる道があればそちらの方を通った。そして次第に交通量が増え、本道が移動していったのである。八代の場合、特に城下町という性格上、参勤交代などの一行は行粧（行列を整える）する必要があった。加えて、行列が通れば町中が混雑し、人々に迷惑

がかかる。二つの煩わしさから、交代の行列は城下町を避けて通るようになったという。その道が、本道よりも道は悪かったが大事な道として大いに活用され、もう一つの街道になったのである。

## 陣の坂（水俣市）

水俣市内、薩摩街道陣の坂。幅二メートルほどのコンクリート舗装の道が、雑木林の中を車道をぬって登っている。昔は展望がよく、眼下に水俣の町が広がり、頂上近くには茶店もあったという。しかし、道は悪く、小石だらけであった。そのため、ここを往来する人々が道端の石を拾い、大きな鬼の歯がた岩（岩に二筋の傷があり、それが鬼の歯がたといわれている）の上に載せて行ったという。次第に道には小石が少なくなり、女性や子どもも楽に通れるようになったという話が、「公徳物語」として伝わっている。この逸話は徳富家の祖先先茂十郎の書物や高山彦九郎の『筑紫日記』にも記されている。今でも、ころび石を拾って岩に乗せると足が軽くなり、坂が楽に登れるといわれ、その鬼の歯がた岩の上には、昔の姿そのままに小石が積まれている。

国道に沿い、いくつかの市街地を通る薩摩街道。その道筋に残る薩摩藩に関する多くの史蹟が、肥後藩だけではなく、薩摩藩にとっても重要な交通路であったことを物語っている。

（参考文献）熊本県歴史の道調査 薩摩街道 昭和59年3月 熊本県教育委員会発行  
お問い合わせ 熊本県教育庁文化課 096-226-1111

— 現在の国道・県道  
— 薩摩街道  
— JF鹿兒島本線



⑯国境の眼鏡橋



⑬陣の坂から見た水俣の町

### 薩摩街道の姿

薩摩（鹿兒島県）から本州へと向かうための非常に重要な交通路として発達した薩摩街道。肥後（熊本県）領内の主要道路であったのはもちろんのこと、九州の中でも強大な勢力を誇っていた薩摩藩の参勤交代路として、重要な意味を持つていた道である。

新町の札の辻（Y.M.C.A.前清爽園入口）を起点に南へと下る街道は、ほぼ国道三号線に沿って走る。その道筋は、宇土氏や小西行長らが居城を構え、細川氏時代三万石の陣屋が置かれた宇土市、一國一城制施行後も薩摩藩への警戒から城が残された八代市など、肥後藩の拠点的地域を通っている。

また、日奈久から水俣へ至る間は赤松、佐敷、津奈木の三大峠がそびえ、さらに津奈木から水俣へは歌坂が控え、難所の続く道程である。